

昭和肥料ニュース

FAX版



Vol. 071

異常高温！水不足！環境激変 土づくりが明暗を分けます！！

今年は、ますます栽培環境が厳しくなっていました。生産力に直結する土づくりは、今からでも遅くありません。手間がかかっても丁寧な土づくりは、期待を裏切らないのではないのでしょうか。

各地で土づくり資材への問い合わせが増加しています。昨年からの土づくり資材各社の状況をみると、年内から来春にかけてお引取時期の平準化が資材調達のコツになるかもしれません。弊社も懸命に生産しますが、ご注意ください。

作物の吸水力を維持するには、加里が必要です

この夏は既に渇水被害が報じられており、各地水の確保が厳しい状況です。手塩にかけた作物を守る対策としては・・・

- ①通常より多めの水の補給 ②過剰蒸散防止、遮光資材を使用する
- ③根張り（根量・根圏）を良くする ④作物の体力を引き出す肥培管理
- ⑤作付け計画（時期）を見直す ⑥耐乾性の強い品種を栽培する

等が有効です。①が所により実施が困難な状況です。

天水（てんすい）圃場で大幅に水不足となる場合の対策はかなり難しいですが、②～⑥を駆使して収穫まで漕ぎつけてもらいたいです。

暑さへの対策として、作物が水と共に土壤養分を吸収しやすくしてやるのが大切です。ここでポイントになる栄養素は「加里」です。

加里は人体で言えば「塩」に当たります。酷暑で脱水症状が起きないように水分と塩分が必要なように、作物にも水と加里が必要です（浸透圧を維持して水分吸収/維持を促進）。

加里は主に肥料から補給されていますが、酷暑の環境では通常より少し多め（+5～10%程度）に施用しておくとい良いでしょう。

土壤診断によって不足と思われる場合は、交換性加里の値が20mg/100g以上を目標に。補給すると良いでしょう（作物や産地ごとに、目標とする値は変わるので、上記量は目安です。10mg/100g以下では各作物減収や障害発生が心配です）

施設園芸や牛ふん堆肥連投圃場などでは加里過剰のケースもあります。その場合は加里の追加施用は必要ありません。石灰分、苦土分とのバランスを整える肥培管理を行ってください。

暑い日が今後も長く続きそうです。皆様お身体にはくれぐれもご注意ください。

ミネラル加里1号



加里20%を主として他に、マンガン5%、苦土5%、りん酸1%、ほう素0.05%を保証した土づくり肥料です。ケイ酸15%も含有し田畑を問わずお使いいただけます。